



麻生音楽祭25年のあゆみ

「音楽の街あさお」のキャッチフレーズのもと、毎年行われている麻生音楽祭が第25回を迎えました。

スクールコンサート、コーラスの集い、アンサンブルのつどい、かなでようあさおの響き、ファミリーコンサート、の5部門に加え、さまざまな協賛イベントが行われ、今年もたくさんの方の区民のみなさんに“音”をたのしんでいただきたいと思います。

ここで25年の歩みをちょっと紹介しましょう。

■麻生音楽祭の誕生

1984年、麻生区発足から2年たち、まだ「麻生市民館」ができていない頃でしたが、年末に音楽イベントをしよう！と地域の音楽家や音楽に造詣の深い市民を中心に声があがり新百合丘駅前広場（現在のバスターミナル）で「音楽フェスタ」が開催され、大変盛り上がりしました。

翌年、市民館が開館したのをうけて、「今度はホールで！」と呼びかけがあり、1986年5月に第1回麻生音楽祭が始まりました。

最初は2日間をかけて“スクールコンサート”“コーラス”“器楽アンサンブル”“オーケストラ”が参加し、第2回からは「音楽の街あさお」のキャッチフレーズが使われるとともに、川崎市教育委員会共催となり、“区民手作りの音楽祭”をモットーに開催してきました。



■麻生音楽祭の成長

1990年第5回から昭和音楽芸術学院もミュージカルで参加。コーラスやアンサンブルの出演団体が増えたことによって、開催日数が増えるとともに、麻生区が主催に加わり、麻生音楽祭は区政推進事業（現在は麻生区魅力ある区づくり推進事業）として歩み始めました。

それともなって“定期演奏会”として参加していた麻生フィルが“ファミリーコンサート”を企画、家族で楽しめる演奏会になりました。第11回からはマイタウンによる協賛イベントも始まりました。



■イメージソングの制作

2005年、第20回になることを記念して“イメージソング”「かがやいて麻生」を作りました。毎年開かれる麻生音楽祭で演奏出来るような、誰もが気軽に口ずさめる歌を作ろうと、歌詞を公募し、全国から総数130作品、6歳から81歳まで幅広い世代からの応募がありました。その中から、最優秀賞に選ばれた星合節子さんの歌詞をご本人が補作し、昭和音楽大学専任講師（当時）の豊住竜志さんが作曲して曲が完成しました。

現在では、麻生音楽祭で演奏されることはもちろんのこと、小・中学校で歌われるとともに、「かがやいて麻生」に合わせた健康体操もでき、区民に親しまれる曲となりました。また、麻生区役所では毎日流れていますし、新百合丘駅前の掲示板の装飾にこの『かがやいて麻生』の譜面の一部が使われています。

■麻生音楽祭の現在

2007年、昭和音楽大学が新百合丘校舎を開校したことで、昭和音楽芸術学院が吸収され、麻生音楽祭での“ミュージカル”部門はなくなりましたが、2009年より“かなでようあさおの響き”（中学校合同演奏）が新たに加わり、また“あさお芸術のまちコンサート”や川崎市アートセンターの“音楽映画特集”等が協賛イベントとして参加するようになり音楽祭の内容もとても広がってきました。



麻生区イメージソング かがやいて麻生

作詞・星合節子
作曲・豊住竜志

一、水もさわやか麻生の流れ
元気でゆくこと呼びかける
花があふれる公園に
人のふれあいほのぼのと
かわす笑顔が増えるまち
★ときめいて麻生 かがやいて麻生
花もどりも ことも おとも
みんな いきいき きてる麻生

二、つばさ広げてとびたつ鳥が
未来へとへよと呼びかける
空へのびゆく木のように
ひとみ明るいこともたち
明日をめざして育つまち
★繰り返し

三、風の生まれるみどりの丘が
大きな夢をと呼びかける
歴史ゆたかなふるさとに
あつい想いをよせあつて
あゆみ新たにひびくまち
★繰り返し

